

## 糖尿病内分泌センター

### a. 体制

- 部長：越山裕行
- 副部長：本庶祥子、浜本芳之、河崎祐貴子
- レジデント：森可南子
- 非常勤医師：池田弘毅、和田良春
- 客員研究員：野村和弘（神戸大学医学部大学院糖尿病・内分泌内科 兼務）、  
岩崎順博（東京医科歯科大学大学院兼務）

越山裕行が赴任して 8 年目となった。後期レジデントの岩崎順博医師が東京医科歯科大学大学院（小川佳宏教授）に進学したが、野村和弘医師同様、客員研究員として引き続き当科の研究・論文作成を続けている。森可南子医師が音羽病院より後期研修医（レジデント）として新たに加わった。

越山裕行（部長）本庶祥子（副部長）浜本芳之（副部長）河崎祐貴子（副部長）和田良春。池田弘毅（外来非常勤スタッフ）森可南子（後期レジデント）野村和弘、岩崎順博（客員医師）、という、昨年度の常勤4名、後期研修医（レジデント）1名、非常勤2名、客員研究員1名の「常勤+非常勤+客員研究員 5+2+1名」体制から、常勤4名、後期研修医（レジデント）1名、非常勤2名、客員研究員2名の「常勤+非常勤+客員研究員 5+2+2名」体制となった。

外来では「糖尿病療養指導外来」を糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師と医師と一緒に30分時間をかけて、総合的な指導を行うことを継続している。

一昨年度からの中山法子認定看護師指導のものと「看護師糖尿病療養指導外来」と「フットケア外来」を継続するとともに中山看護師が、日本で初めて発足した診療看護師（米国の NP: Nurse Practitioner に相当）の試験に合格し、糖尿病における NP の役割という前人未踏の分野を開拓することとなり、今後本センターが理想的モデルなるべく、スタッフが努めるつもりである。

「主治医制」から「チーム医療」への科全体で入院患者を診療する体制を継続した。

「北野病院 糖尿病内分泌センター」としての活動の継続

「北野病院 糖尿病内分泌センター」を発足して3年目となったが、さらに活動を充実した。

「(財) 田附興風会医学研究所北野病院糖尿病糖尿病内分泌センターメンバー表(平成 22 年度)」

センター長	越山 裕行				
医 師	本庶 祥子	浜本芳之	河崎祐貴子	池田弘毅	河崎 祐貴子
	森可南子				
管理栄養士	永原 守	久保 麻友子	山田 信子*		
薬剤師	玉田 理恵*				
理学療法士	山田 修*				
臨床検査技師	小田嶋 康雄				
衛生検査技師	山崎 みどり				
看護師長	渡辺 加寿代*	国光 ハナエ			
主任看護師	加藤 千春	永岡 雅美	重田由美 (地域連携担当)		
看護師	神代 英子	上川 幸子	安藤 ますみ*	楠本美和*	南口 信恵
	博多 恵美*	越井 由佳子*	中村 由佳*	中山 法子☆ (健診部兼任)	重田 由美 (地域医療連絡室兼任)
事務担当	泉 かおる	志水晃介 (栄養課)			

\*は糖尿病療養指導士の有資格者。

☆は糖尿病看護・認定看護師の有資格者。

メイン病棟を9西に移動し「専門病棟集中教育」を毎日開始して3年目となったが、浸透し、患者教育の充実、メンバーのスキル向上を継続した。専門病棟以外の教育の負担やインスリン注射に関するヒヤリハットが減少した。

病診連携：これまで通り「2人主治医制」によるかかりつけ医との併診を進めてきた。本邦初のDPP-4阻害薬(sitagliptin)の発売に伴い、1年間は2週間処方という日本独自の制限を逆に利用し、クリニックで処・副作用(低血糖)のチェック、3ヶ月ごとに本院で受診という体制で対処し、病診連携が大幅に進んだ。

糖尿病教室も引き続き、合併症関連各科の協力を得て、幅広い立場からの教育を行った。学術活動は、これまでも医師のみでなくチームのhealth care providers(いわゆるコメディカルは「和製英語」)も学術活動を行ってきたが、さらにそれを発展させた。研究会のみならず、平成22年の日本糖尿病学会総会(札幌)には10題発表するなどの成果をあげた。講演活動も医師のみでなく中山法子看護師が全国で活躍した。SRの教育活動の一環として発表も多く行わせた。

国際学会は本年度特に力を入れた。以下のように計13題である。特に2は口演、3は会長彰を受賞する名誉に浴した(DelPlato教授から和田良春医師が表彰された式の模様はYouTubeで公開中)。ADA, EASDは昨年のゼロからADA2題、EASD2題が採用された。

※糖尿病内分泌センターのADA, EASDの発表成績

- : not submitted

Q: Publish Only

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
ADA	-	-	0 (1)	0 (2)	-	2 (2)	1	2
EASD	-	-	-	-	1	4	0	2

- 1 Koshiyama H, Nomura K, Takahara S, Kikuchi O, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Kawasaki Y Usefulness of Carotid Intima-Media Thickness as a Screening Method of Silent Cerebral Infarction in Japanese Subjects with Type 2 Diabetes. WCPD 2010 -6th World Congress on Prevention of Diabetes and its Complications 2010. 4. 8-11 (Dresden, Germany)
- 2 Koshiyama H, Nomura K, Ikeda H, Honjo S, Kawasaki Y, Hamamoto Y. Cardiac autonomic dysfunction is related to sleep-disordered breathing in nonobese diabetic subjects. CODHy 2010. 5. 13-17 (Prague, Czech Republic)→Oral Presentation
- 3 Wada Y, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Kawasaki Y, Iwasaki Y, Nomura K, Koshiyama H. Clinical Effects of Various Angiotensin II Receptor Blockers in Japanese subjects with type 2 diabetes. CODHy 2010. 5. 13-17 (Prague, Czech Republic)→The Best Abstract Award
- 4 Kawasaki Y, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Nomura K, Iwasaki Y, Koshiyama H. Asymptomatic coronary heart disease is rare in Japanese subjects with type 2 diabetes. The 70<sup>th</sup> ADA Scientific Meeting, 2010. 6. 25-29 (Orland, USA)
- 5 Wada Y, Iwasaki Y, Hamamoto Y, Fujikawa J, Honjo S, Kawasaki H, Ikeda H, Nomura K, Koshiyama H. Seasonal variations in albumin/creatinine ratio in Japanese subjects with type 2 diabetes and nephropathy. The 70<sup>th</sup> ADA Scientific Meeting, 2010. 6. 25-29 (Orland, USA)
- 6 Kawasaki Y, Iwasaki Y, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Nomura K, Takahasi J, Koshiyama H. Serum IGF-1 concentration is correlated with insulin resistance in patients with acromegaly. The 7<sup>th</sup> International Congress of Neuroendocrinology 2010. 7. 11-15 (Rouen, France)

- 7 Wada Y, Nakamura Y, Honjo S, Hamamoto Y, Kawasaki Y, Ikeda H, Shimatsu A, Koshiyama H. Lymphocytic panhypophysitis: its clinical features of Japanese cases. The 7<sup>th</sup> International Congress of Neuroendocrinology 2010. 7. 11-15 (Rouen, France)
- 8 Hamamoto Y, Kawasaki Y, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Nomura K, Iwasaki Y, Koshiyama H. Asymptomatic coronary heart disease is rare in Japanese subjects with type 2 diabetes. The 46<sup>th</sup> EASD Annual Meeting 2010. 9. 20-24 (Stockholm, Sweden)
- 9 Wada Y, Iwasaki Y, Hamamoto Y, Fujikawa J, Honjo S, Kawasaki H, Ikeda H, Nomura K, Koshiyama H. Seasonal variations in albumin/creatinine ratio in Japanese subjects with type 2 diabetes and nephropathy. The 46<sup>th</sup> EASD Annual Meeting 2010. 9. 20-24 (Stockholm, Sweden)
- 10 Hamamoto Y, Ikeda H, Honjo S, Kawasaki Y, Mori K, Wada Y, Koshiyama H. Deteriorative effect on glycemic control of fixed combination of hydrochlorothiazide and ARBs in Japanese type 2 diabetic patients with hypertension. The 3<sup>rd</sup> International Conference on Fixed Combination 2010. 11. 18-20 (Brisbane, Australia).
- 11 Mori K, Iwasaki Y, Kawasaki Y, Iwasaki Y, Honjo S, Hamamoto Y, Ikeda H, Wada Y, Nomura K, Takahashi Y, Takahashi J, Koshiyama H. Serum IGF-1 concentration is correlated with insulin resistance in patients with acromegaly. International Symposium of IGF-1, GH and Ghlerin/GHS: Climbing the Scientific Growth Ladder 2011. 3. 4-6 (Orland, US)
- 12 Tanaka M, Matsumura T, Fujikawa J, Nakamura H, Nohara R, Honjo S, Koshiyama H. Quality improvement of osteoporosis-related health screening and health check-up. European Congress on Osteoporosis & Osteoarthritis 2011. 3. 23-26. (Barcelona, Spain).
- 13 Kume N, Koshiyama H, KISHIMEN Investigators. Pitavastatin Reduces Elevated Soluble Lectin-Like Oxidized LDL receptor-1 Levels in Subjects with Hypercholesterolemia: Sub-Analysis of Kansai Investigation of Statin for Hyperlipidemic Intervention in Metabolism and Endocrinology (KISHIMEN). 60<sup>th</sup> Annual Scientific Session, American College of Cardiology, 2011. 4. 3-5 (New Orleans, USA)

浜本芳之医師が基礎実験の確立を目指しているが、まだ成果はない。

和田良春、浜本芳之、本庶祥子、河崎祐貴子、森可南子、池田弘毅、中村嘉夫、高橋潤、弓場吉哲、島津章、越山裕行 日本人におけるリンパ球性汎下垂体炎の特徴 第20回臨床内分泌代謝 Update 2011. 1. 28-29 (札幌、北海道)→優秀演題賞を受賞した (表彰式の模様はYouTubeで公開中)。

計7編の英語論文が各雑誌に受理された。

特に越山裕行がニュージーランドの会社より、依頼されJapanese Clinical Medicine(JCM)というオープン雑誌を立ち上げた。Editor-in-Chiefには越山が、Deputy Editorには浜本が就任し、本院の多くの部長にEditorial Boardに入ってもらい、他の研究機関・大学・開業医の先生方にも Editorial Boardに入ってもらった。オープン雑誌の評価は一般にまだ低いですが、幸いJCMは出だしから、多くの投稿をもらい、出だしは順調である。いずれPubMedに掲載されimpact factorもつくものと期待している。<http://www.la-press.com/>院内での各科との連携：下記「北野糖尿病合併症フォーラム」を合併症関連各科と引き続き共同開催している。

河崎祐貴子医師が「北野 NST : Nutritional Support Team」メンバーとして低栄養のみではなく過栄養にも対処できるNSTを継続した。

本科主催の研究会「北野糖尿病・内分泌倶楽部」「北野 B. B. (broadband)DM フォーラム (KBBD)」「北野動脈硬化症セミナー」「北野糖尿病合併症フォーラム」を中心にした病診連携のための研究会活動も順調に進んでいる。特に東日本大震災直後に KBBD において、参議院議員梅村聡先生 (医師) より、震災後の現状と問題点について伺えたことは貴重であった。

1. The International KITANO Seminar : Opening Remarks: Hiroyuki Koshiyama, , Session 1: Chair: Yoshio Fujioka Division of Clinical Nutrition, Faculty of Nutrition, Kobe Gakuin University “Antiatherogenic Actions of Amlodipine” Hiroki Ikeda, Ikeda Hosiptail & Visiting Scientist, KITANO Hospital “Soluble lectin-like oxidized LDL receptor-1 (sLOX-1) is a diagnostic and prognostic biomarker for acute coronary syndrome (ACS)” Noriaki Kume, MPhD, Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University Session 2 :Chair: Ryuji Nohara, MD PhD “Endothelial Dysfunction in Cardiovascular Risk “~A Nanotechnology Approach~” Preston Mason. Harvard Medical School. Closing Remarks: : Ryuji Nohara, 2010. 5. 6 (きたのホール、大阪)
2. 第 13 回北野糖尿病合併症フォーラム 当番世話人 武曾恵理 テーマ:糖尿病性腎症. 一般演題 塚本達郎 座長 大歳健太郎 四方賢一 2010. 6. 5 [きたのホール]
3. 第 16 回 北野糖尿病・内分泌倶楽部 一般講演座長 朝日新聞大阪本社診療所 所長 吉田 途男 講演 I 合剤を使った糖尿病患者の降圧療法 ~世界合剤学会からの報告を交えて~ (財) 浜本 芳之 講演 II 当科の病診連携について 本席 祥子 特別講演 座長 越山 裕行 糖尿病に至る過程-徳島における糖尿病疫学研究より- 徳島大学病院 糖尿病対策センター センター長 教授 船木 真理 2010. 6. 10 (ブリーゼプラザ、大阪)
4. 第 13 回北野動脈硬化症フォーラム 一般講演 座長 上木昇 越山裕行「糖尿病と動脈硬化の最近の話題」 今野英一「動脈硬化症と食事・栄養療法」 特別講演 座長 不藤哲郎 木村剛「冠動脈治療-最近の動向-」 2010. 6. 11 (ホテルグランビア大阪)
5. 第 14 回北野 B B DM フォーラム 一般講演座長 坂口博美 河崎祐貴子「Exendin の基礎的検討」、浜本芳之「 $\alpha$ -GI とインクレチン」 特別講演 座長 : 越山裕行 医師『The New Era of Diabetic Medicine - Anti-hyperglycemic therapy to anti-aging care -』 金沢大学医薬保健研究域医学系恒常性制御学 金沢大学附属病院内分泌代謝内科 准教授 篁 俊成 2010. 7. 17 (ブリーゼプラザ、大阪)
6. 第 14 回北野糖尿病合併症フォーラム 当番世話人 野原隆司 座長 : 新宮 良介『糖尿病の大血管障害 -当院の症例を中心に-』 衣川 徹『糖尿病と心血管病~その特徴と管理上の諸問題~』 滋賀医科大学 病院長 柏木 厚典 2010. 10. 6 (山西福祉記念会館 大ホール、大阪)
7. 第 17 回北野糖尿病・内分泌倶楽部 一般講演 座長 橋本久仁彦 I 河崎祐貴子「ADA、ICN の話題」 II 浜本芳之「EASD の話題」座長 : 辻クリニック 院長 辻 景俊 先生 III 「カーボカウントの実践法」黒田暁生「カーボカウンティング」特別講演 座長 越山 裕行 「血管合併症予防を目指した糖尿病治療」自治医科大学 内分泌代謝科教授 石橋俊 2010. 11. 11 (ブリーゼプラザ、大阪)
8. インクレチン研究会 座長 中村嘉夫 演者 井上元「インクレチン治療の実際~ DPP4 阻害薬の手応えと適正使用に向けて~」 ディスカッション 座長 越山裕行 症例発表 下野大、奈部浩一郎、池田弘毅、研究紹介 浜本芳之 クロージングリマックス 南川順 2010. 12. 2 (帝国ホテル、大阪)
9. Diabetes Academy Meeting (DAM) in Osaka ~New Era of S1tagliptin~ 座長 越山裕行 講師 黒瀬健「新しい糖尿病治療の可能性とその問題点」 ディスカッション

ーDPP-4 阻害薬は糖尿病治療薬のファーストチョイスになりうるか？ー 浜本芳之ら  
2010. 12. 5 (リッツ・カールトン大阪、大阪)

10. 第 15 回北野 B B D M フォーラム 一般演題 座長 : 越山裕行『2 型糖尿病合併高  
血圧患者に対するイルベサルタンの効果～降圧効果と微量アルブミン及び HbA1c に対  
する効果の検討～』浜本 芳之 特別講演 座長 新宮良介『国政での社会保障・医療  
政策論議』 民主党参議院議員 梅村 聡 2011. 3. 26 (住友クラブ、大阪)

INTERNATIONAL KITANO ENDO SEMINAR (IKES) も継続しており、今年度は、10 月 23 日に第  
20 回として越山の旧知の知人であり、数々の大規模試験の主宰者である Steven Haffner 先  
生を招き、以下のように開催した。

The 20<sup>th</sup> IKES TIME & PLACE 17:00-19:00 October 23<sup>rd</sup> (Saturday), 2010; KITANO Hall,  
5F, Medical Institute KITANO Hospital, Osaka Opening Remarks: Program  
Moderator; Hiroyuki Koshiyama MDPH SESSION 1: Chair: Tomomi  
Fujisawa, M. D., Ph. D. Assistant Professor, Department of Geriatric Medicine,  
Osaka University Graduate School of Medicine “Does Incretin-based Therapy  
Cause Paradigm Shift in Japan?” Hiroki Ikeda, MD PhD, Yoshiyuki Hamamoto, MDPH  
SESSION 2: Special Lecture Chair: Masayuki Inaba, MD PhD. Professor,  
Department of Medicine, Osaka City University “Pre-diabetes and  
Atherosclerosis” Steven Haffner, Professor of Internal Medicine, University of  
Texas Health Science Center Closing Remarks: Ryuji Nohara, MD PhD 2010. 10. 23  
(KITANO Hall, Osaka)

3 月 3 日に第 21 回として Joslin Clinic, ハーバード大学医学部より浜本医師の留学時代  
の恩師である Susan Bonner-Weir 先生, Gordon Weir 先生ご夫妻をお迎えし、開催するこ  
とが出来た。

The 21<sup>st</sup> INTERNATIONAL KITANO ENDO SEMINAR TIME & PLACE : 18:00; March 3<sup>rd</sup>  
(Thursday), 2011 KITANO Hall. 6<sup>th</sup> Floor, KITANO Hospital Opening Remarks: Hiroyuki  
Koshiyama, Director of Center for Diabetes and Endocrinology, Medical Research  
Institute KITANO Hospital Lecture 1. Chair: Yoshiyuki Hamamoto KITANO Hospital  
Kenji Osafune, MD, PhD Associate Professor, Center for iPS Cell Research and  
Application, Kyoto University Special Lecture Chair: Tomomi Fujisawa MD, PhD  
Professor, Sakai Municipal Hospital, Title:  
The postnatal role of pancreatic progenitors in growth and regeneration.  
Susan Bonner-Weir, PhD Associate Professor, Section on Islet Transplantation and  
Cell Biology Chair: Junya Toguchida MD, PhD, Professor, Center for iPS cell  
research, Kyoto University,  
Title: Preserving Beta Cell Mass in Types 1 and 2 Diabetes. Gordon C. Weir, MD.  
Professor, Section on Islet Transplantation and Cell Biology. Joslin Diabetes  
Center, Harvard Medical School. Closing Remarks: Ryuji Nohara, MD, PhD 2010. 3. 3  
(KITANO Hall, Osaka)

共に国内からも藤澤智己先生、稲葉雅章先生、長船健二先生、戸口田淳一先生らのオピニオンリー  
ダーの先生方もお迎えして盛会のうちに終了した。3 月 24 日にデンマーク Steno Diabetes Center  
より Daniel Witte 先生をお迎えして行う予定であった IKES は 3 月 11 日に発生した東日本大震災  
のあとの福島原発事故の懸念から、デンマーク政府から許可されないとのことで中止のやむなきに  
至った。

越山がデンマークの世界的に有名な糖尿病センターである Steno Diabetes Center に 11 月  
16-17 日招請され、講演を行った。Koshiyama H. “Status of Diabete Mellitus in  
Japan-Clinical Research, Incretin-based Therapy and New Paradigm-” Special Lecture  
in Steno Diabetes Center 2010. 11. 16 (Steno Diabetes Center, Copenhagen, Denmark).

さらに Steno Diabetes Center における綿密なチーム医療、臨床研究の具体的な進め方などを各スタッフより説明を受けた。是非、本センターの発展に参考にだけでなく、NP の今後の方向性ととも現在日本で出来ることを、全国に提唱していきたい。

福岡大学名誉教授 荒川規矩夫先生にお願いして高血圧症に対する薬物療法の発達で、つい軽視しがちな塩分制限について講義をお願いした。RAS 系はそれ自身では決して「悪者」ではなく、塩分の取りすぎが元凶であることなど、非常に有益な講義をしていただき、非常に多数集まった参加者からも非常に好評であった。減塩のススメ in Osaka 一般講演 座長 藤澤智己 「糖尿病治療と血圧管理」 浜本芳之 特別講演 座長 越山裕行 「食塩と高血圧」 荒川規矩夫 (福岡大学名誉教授) 2010. 4. 17 (リッカルトン大阪、大阪)

新しい試みとして国際看護セミナーを以下のように開催したところ、多数の参加を得て大変好評であった。The INTERNATIONAL KITANO Nurse Diabetes & Endo SEMINAR (IKNDES) 特別講演 座長：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 准教授 瀬戸 奈津子 「NP in the USA : Past, Present and Future」 Community Hospital of the Monterey Peninsula FNP (Family Nurse Practitioner) Eri Matsumoto シンポジウム 司会 越山 裕行 テーマ『糖尿病医療における看護師の役割、その可能性について』パネリスト Community Hospital of the Monterey Peninsula FNP (Family Nurse Practitioner) 松本 恵理 Harden Urgent Care Medical Center Alfred M. Sadler Jr. MD 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 准教授 瀬戸 奈津子国際医療福祉大学大学院看護学分野 看護管理・開発学領域(保健医療学専攻) 教授 湯沢 八 江中山 法子 2010. 10. 23 (きたのホール、大阪)

これまで通り K2-Net として小規模の勉強会を開業医の非糖尿病専門医のかたを対象に継続した。

1. K2-Net 糖尿病内分泌センター 「地域医療サービスセンターの役割」重田由美 「北野病院における患者教育システム」中山法子 「2 型糖尿病におけるジャヌビア錠の効果の検討」(座長 越山裕行) 浜本芳之 2010. 6. 17 (ホテル阪急インターナショナル、大阪)
2. K2-Net 重田由美「地域医療サービスセンターの紹介」 座長 越山裕行 浜本芳之「インクレチン製剤の特徴ーシタグリブチンの使用経験からー」 2010. 12, 18 (ホテル阪急インターナショナル、大阪)

診療圏は相変わらず非常に広く、糖尿病以外の内分泌疾患も非常に数が多い。下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺などあらゆる分野をカバーしている。内分泌領域の新患も病診連携の浸透によりさらに順調に増えている。最近特に、原発性アルドステロン症疑いの紹介患者、下垂体腫瘍が増えてきた。泌尿器科、脳神経外科との連携も円滑に行われ、副腎腫瘍ならびに下垂体腫瘍, その他のトルコ鞍周辺部腫瘍は原則として術前・術後に内分泌機能を評価して最も良い治療法の選択に努めている。

越山が病院全体の研修管理委員会の責任者に任命されて 8 年目に入り、研修医・医学生の教育もこれまで以上に力を入れた。前期研修では全国的な知名度も増した。上述の IKES は、これまで通り研修医全体の参加を義務づけ、研修医も発表や質疑に積極的に参加した。この会の国内外での知名度も年々上がりつつある。

本科の目標の 1 つである「予防医学」については、本院設立 80 周年事業として越山が提唱した「予防医学研究所」の設立を 80 周年事業の 3 大事業の I として位置づけ再開した。

一昨年度より、入院患者すべて及び外来患者の一部のファイルメーカーによるデータベースを IT 課の協力を得て病院の端末ネット上組み込んでいるが、引き続き、外来や病棟での診療および臨床研究に生かした。

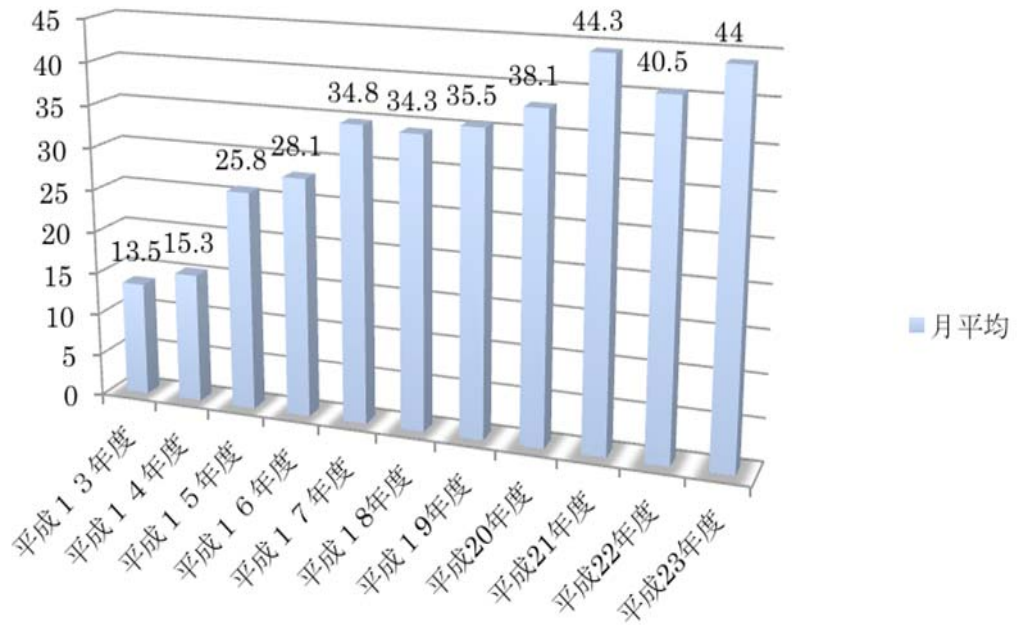
広報活動・マスコミでの紹介など

- 1 糖尿病の患者数ランキング（2009 年度版）で北野病院が全国 24 位と紹介されました。  
<http://hospia.jp/wp/archives/1937/> ※【出所】平成 22 年度 第 3 回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 資料（厚生労働省）を集計して作成
- 2 内分泌系患者数ランキングで北野病院が紹介されました。  
<http://hospia.jp/toplst/?id=10> [出所] 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会での報告データ
- 3 1 月 15 日発売の週刊ポストに越山のインタビュー記事が掲載されました。・当センター長越山医師のインタビュー記事が月刊誌「一個人」2月号（KK ベストセラーズ）に掲載されました。掲載記事：「糖尿病医療を変える 期待のインクレチン関連経口薬」
- 4 当センターの佐藤運動生理学講師がACSM(アメリカスポーツ医学会)の発行するHealth & Fitness Journalの 2011 Trend特集の中で、International Expertsの一人として紹介されました。  
[http://journals.lww.com/acsm-healthfitness/Fulltext/2010/11000/Worldwide\\_Survey\\_of\\_Fitness\\_Trends\\_for\\_2011.6.aspx](http://journals.lww.com/acsm-healthfitness/Fulltext/2010/11000/Worldwide_Survey_of_Fitness_Trends_for_2011.6.aspx)
- 5 和田医師の腎症の季節変動のEASDでの発表が下記のサイトで紹介されました。  
<http://www.theheart.org/article/1130001.do>
- 6 神戸大学平田先生、神戸学院大学藤岡先生、京都大学久米典昭先生らとの共同研究 KISHIMEN のサブ解析の結果が論文になりました。KISHIMEN としては3本目の論文となります。Fujioka Y, Fukuda A, Ishida T, Kagimoto S, Nakamura Y, Iwakura A, Hara K, Yamamoto T, Kuroe A, Ohya M, Fujimoto S, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Nabe K, Tsuda K, Taniguchi A, Tanaka K, Koshiyama Hiroyuki H, Kum N, Hirata K-i. Pitavastatin reduces elevated IL-18 levels in Japanese subjects with hypercholesterolemia: Sub-analysis of Kansai Investigation of statin for hyperlipidemic Intervention in Metabolism and Endocrinology (KISHIMEN) JAT2011:18:8-15. なおこの論文を含む KISHIMEN 研究についてのわれわれの解説が MR 君に紹介された。

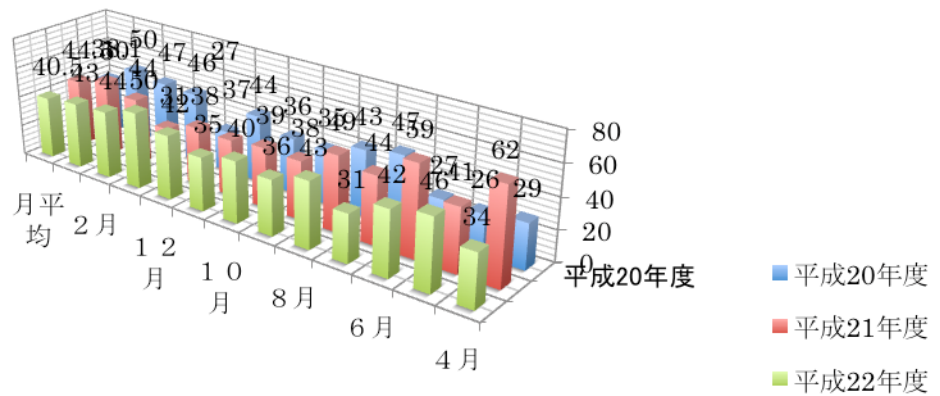
b. 診療実績

月別の入院患者数は下記の図1のようであった。平成22年度は年合計486名で月平均40.5名と、昨年度(21年度)より減ったがこれは昨年度3日入院導入し—昨年度(20年度)に比べて75名(532名)と飛躍的な上昇を示したことが大きく、22年度も20年度に比べれば29名増加している。

### 図2. 年度別月平均



### 図3. 最近3年度月別入院患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
平成20年度	29	26	27	47	43	35	36	44	27	46	47	50	38.1
平成21年度	62	41	59	44	49	38	39	37	38	31	44	50	44.3
平成22年度	34	46	42	31	43	36	40	35	42	50	44	43	40.5

c. 研究実績

学会発報

1. Koshiyama H, Nomura K, Takahara S, Kikuchi O, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Kawasaki Y Usefulness of Carotid Intima-Media Thickness as a Screening Method of Silent Cerebral Infarction in Japanese Subjects with Type 2 Diabetes. WCPD 2010 -6th World Congress on Prevention of Diabetes and its Complications 2010. 4. 8-11 (Dresden, Germany)
2. Koshiyama H, Nomura K, Ikeda H, Honjo S, Kawasaki Y, Hamamoto Y. Cardiac autonomic dysfunction is related to sleep-disordered breathing in nonobese diabetic subjects. CODHy 2010. 5. 13-17 (Prague, Czech Republic)→Oral Presentation
3. Wada Y, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Kawasaki Y, Iwasaki, Y, Nomura, K Koshiyama H. Clinical Effects of Various Angiotensin II Receptor Blockers in Japanese subjects with type 2 diabetes. CODHy 2010. 5. 13-17 (Prague, Czech Republic)→The Best AbstractAward
4. 本庶祥子、河崎祐貴子、浜本芳之、岩崎順博、和田良春、池田弘毅、越山裕行 当院 2 型糖尿病における 新規がんの発見についての検討 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
5. 浜本芳之、本庶祥子、河崎祐貴子、岩崎順博、和田良春、野村和弘、池田弘毅、越山裕行 インスリン 使用者の発癌状況とインスリン製剤の検討 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
6. 玉田理恵、本庶祥子、浜本芳之、河崎祐貴子、岩崎順博、和田良春、池田弘毅、國正淳一、越山裕行 インスリン自己注射におけるメディケーションエラーについての検討 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
7. 河崎祐貴子、本庶祥子、浜本芳之、岩崎順博、池田弘毅、和田良春、野村和弘、越山裕行 糖尿病患者に おける無症候性心筋虚血スクリーニング方法の検討 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
8. 岩崎順博、浜本芳之、本庶祥子、河崎祐貴子、池田弘毅、和田良春、越山裕行 先端巨大症における術後 早期のインスリン抵抗性変化の検討 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
9. 和田良春、浜本芳之、藤川潤、本庶祥子、河崎祐貴子、岩崎順博、野村和弘、池田弘毅、越山裕行 糖尿病性腎症患者における蛋白制限食の退院後血清クレアチニンとシスタチン C への影響 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
10. 佐藤真治、河崎祐貴子、浜本芳之、本庶祥子、越山裕行、田中史朗 潜在的な下肢閉塞性動脈硬化症 (かくれ PAD) が疑われる糖尿病患者に対する運動療法は足関節上腕血圧比 (ABI) を改善するか? 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
11. 中山法子、久保麻友子、神代英子、博多恵美、安藤ますみ、楠本美和、南口信恵、中村由佳、越井由佳子、河崎祐貴子、本庶祥子、浜本芳之、越山裕行 糖尿病合併症予防のための小集団教育の取り組みの検討 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
12. 久保麻友子、中山法子、井上裕子、山田信子、永原 守、金田恵美、河崎祐貴子、本庶祥子、浜本芳之、越山裕行 病院給食を教材にした「昼食時の栄養指導」の取り組みについてーいただきますを一緒に!ー 第 53 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
13. 小田嶋康雄、山崎みどり、田端宏道、藤川潤 当院における糖尿病教室の臨床検査技師の役割について 第 52 回日本糖尿病学会総会 2010/5/27-29 (岡山)
14. Kawasaki Y, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Nomura K, Iwasaki Y, Koshiyama H. Asymptomatic coronary heart disease is rare in Japanese subjects with type 2 diabetes. The 70<sup>th</sup> ADA Scientific Meeting, 2010. 6. 25-29 (Orland, USA)

15. Wada Y, Iwasaki Y, Hamamoto Y, Fujikawa J, Honjo S, Kawasaki H, Ikeda H, Nomura K, Koshiyama H. Seasonal variations in albumin/creatinine ratio in Japanese subjects with type 2 diabetes and nephropathy. The 70<sup>th</sup> ADA Scientific Meeting, 2010. 6. 25-29 (Orland, USA)
16. 加藤彩子、岩崎順博、本庶祥子、浜本芳之、池田弘毅、河崎祐貴子、和田良春、越山裕行 両側副腎腫瘍 を伴い、副腎静脈サンプリングを施行したクッシング症候群の一例 第 191 回日本内科学会近畿地方会 2010/6/12 (京都)
17. 古根川靖、和泉俊明、福田旭伸、春名徹也、猪子森明、野原隆司、岩崎順博、浜本芳之、越山裕行 肺炎 治療中に QT 延長、Torsade de Pointes を認めた Sheehan 症候群の 1 例 第 191 回日本内科学会近畿地方会 2010/6/12 (京都)
18. Kawasaki Y, Iwasaki Y, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Nomura K, Takahasi J, Koshiyama H. Serum IGF-1 concentration is correlated with insulin resistance in patients with acromegaly. The 7<sup>th</sup> International Congress of Neuroendocrinology 2010. 7. 11-15 (Rouen, France)
19. Wada Y, Nakamura Y, Honjo S, Hamamoto Y, Kawasaki Y, Ikeda H, Shimatsu A, Koshiyama H. Lymphocytic panhypophysitis: its clinical features of Japanese cases. The 7<sup>th</sup> International Congress of Neuroendocrinology 2010. 7. 11-15 (Rouen, France)
20. Hamamoto Y, Kawasaki Y, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Nomura K, Iwasaki Y, Koshiyama H. Asymptomatic coronary heart disease is rare in Japanese subjects with type 2 diabetes. The 46<sup>th</sup> EASD Annual Meeting 2010. 9. 20-24 (Stockholm, Sweden)
21. Wada Y, Iwasaki Y, Hamamoto Y, Fujikawa J, Honjo S, Kawasaki H, Ikeda H, Nomura K, Koshiyama H. Seasonal variations in albumin/creatinine ratio in Japanese subjects with type 2 diabetes and nephropathy. The 46<sup>th</sup> EASD Annual Meeting 2010. 9. 20-24 (Stockholm, Sweden)
22. 森本桂子、森可南子、河崎祐貴子、浜本芳之、越山裕行 毛髪・骨・歯症候群が疑われた 1 例 第 39 回骨・カルシウム代謝研究会 2010/9/3
23. 森可南子、岩崎順博、浜本芳之、本庶祥子、河崎祐貴子、池田弘毅、和田良春、越山裕行 先端巨大症に おける術後早期のインスリン抵抗性変化の検討 第 6 回アクロメガリーフォーラム 2010/9/25 (大阪国際会議場、大阪)
24. 池田正毅、本庶祥子、浜本芳之、河崎祐貴子、森可南子、和田良春、越山裕行 GAD 抗体弱陽性の糖尿病 の臨床的特徴に関する検討 第 8 回 1 型糖尿病研究会 2010/10/11 (長崎大学医学部、長崎市)
25. 森可南子、本庶祥子、河崎祐貴子、浜本芳之、和田良春、池田弘毅、越山裕行 糖尿病発症後に抗 GAD 抗体が陽性化した 1 例 第 47 回日本糖尿病学会近畿地方会 2010/11/13 (大阪国際会議場、大阪)
26. 濱田佳奈、森可南子、浜本芳之、河崎祐貴子、本庶祥子、和田良春、池田弘毅、越山裕行 高用量のインスリンに替わってリラグルチドが著効した 1 例 第 47 回日本糖尿病学会近畿地方会 2010/11/13 (大阪国際会議場、大阪)
27. 糝谷泰彦、本庶祥子、森可南子、浜本芳之、河崎祐貴子、池田弘毅、和田良春、越山裕行 急性膵炎として加療されていた劇症 1 型糖尿病の 1 例 第 47 回日本糖尿病学会近畿地方会 2010/11/13 (大阪国際会議場、大阪)
28. 羽間大祐、森可南子、本庶祥子、河崎祐貴子、浜本芳之、和田良春、越山裕行 褐色細胞腫に伴う耐糖能障害の検討 第 47 回日本糖尿病学会近畿地方会 2010/11/13 (大阪国際会議場、大阪)
29. 浜本芳之、本庶祥子、河崎祐貴子、森可南子、和田良春、池田弘毅、越山裕行 我が国初の DPP-IV 阻害薬シタグリプチンの有効性および安全性の検討 第 47 回日本糖尿病学会近畿地方会 2010/11/13 (大阪国際会議場、大阪)
30. 立石晃子、井田健一、森山めぐみ、山内真理、川口桂、宇佐美勝、池田弘毅、池田正毅、

越山裕行 尿中微量アルブミンの季節変動に関する検討 第 47 回日本糖尿病学会近畿地方会 2010/11/13 (大阪国際議場、大阪)

31. Hamamoto Y, Ikeda H, Honjo S, Kawasaki Y, Mori K, Wada Y, Koshiyama H. Deteriorative effect on glycemic control of fixed combination of hydrochlorothiazide and ARBs in Japanese type 2 diabetic patients with hypertension. The 3<sup>rd</sup> International Conference on Fixed Combination 2010. 11.18-20 (Brisbane, Australia).
32. 森可南子、河崎祐貴子、本庶祥子、浜本芳之、和田良春、池田弘毅、越山裕行 甲状腺左葉欠損に無通性甲状腺炎を合併した1例 第 33 回京都甲状腺研究会 2011/1/22 (ウェスティン都ホテル京都、京都)
33. 和田良春、浜本芳之、本庶祥子、河崎祐貴子、森可南子、池田弘毅、中村嘉夫、高橋 潤、弓場吉哲 島津 章、越山裕行 日本人におけるリンパ球性汎下垂体炎の特徴 第 20 回臨床内分泌代謝 Update 2011/1/28-29 (札幌、北海道)→優秀演題賞受賞
34. 山口亮平、浜本芳之、本庶祥子、河崎祐貴子、和田良春、越山裕行、Jüppner H. CaSR 遺伝子異常による 常染色体優性低カルシウム血症の一家系 第 20 回臨床内分泌代謝 Update 2011/1/28-29 (札幌、北海道)
35. 森可南子、本庶祥子、浜本芳之、河崎祐貴子、和田良春、池田弘毅、高橋由紀、高橋 潤、佐野寿昭、越山裕行 男性 gonadotroph cell adenoma の 3 例 第 20 回臨床内分泌代謝 Update 2011/1/28-29 (札幌、北海道)
36. 森實一晃、河崎祐貴子、本庶祥子、浜本芳之、森可南子、山田正三、吉本勝彦、越山裕行 家族性先端巨大症における AIP 遺伝子の検討 第 9 回関西間脳下垂体疾患研究会 2011/2/19 (帝国ホテル大阪、大阪)
37. 森可南子、野村和弘、本庶祥子、河崎祐貴子、浜本芳之、和田良春、池田弘毅、越山裕行 原発性副甲状腺機能亢進症に対するアレンドロネートを中心とした薬物治療の検討 第 17 回近畿骨粗鬆症研究会 2011/2/26
38. 越山裕行 パネルディスカッション 「年齢によって骨粗鬆症の治療を分けるべきか？」第 17 回近畿骨粗鬆症研究会 2011/2/26 (帝人ホール、大阪)
39. Mori K, Iwasaki Y, Kawasaki Y, Iwasaki Y, Honjo S, Hamamoto Y, Ikeda H, Wada Y, Nomura K, Takahasi Y, Takahasi J, Koshiyama H. Serum IGF-1 concentration is correlated with insulin resistance in patients with acromegaly. International Symposium of IGF-1, GH and Ghlerin/GHS: Climbing the Scientific Growth Ladder 2011. 3. 4-6 (Orland, US)
40. 森實一晃、河崎祐貴子、本庶祥子、浜本芳之、森可南子、山田正三、吉本勝彦、越山裕行 家族性先端巨大症における AIP 遺伝子の検討 第 21 回間脳下垂体腫瘍学会 2011/3/11-12 (秋葉原コンベンションセンター、東京)
41. 石田雄大、本庶祥子、浜本芳之、河崎祐貴子、池田弘毅、和田良春、野村和弘、岩崎順博、森可南子、越山裕行 DPP4 阻害薬により血糖コントロールが改善した抗インスリン抗体陽性糖尿病の一例 第 5 回 n 糖尿病臨床フォーラム 2011/3/19
42. Tanaka M, Matsumura T, Fujikawa J, Nakamura H, Nohara R, Honjo S, Koshiyama H. Quality improvement of osteoporosis-related health screening and health check-up. European Congress on Osteoporosis & Osteoarthritis 2011. 3. 23-26. (Barcelona, Spain).

#### 論文発表

1. 玉田理恵、池田弘毅、本庶祥子、河崎裕貴子、國正淳一、越山裕行薬剤部から、ジェントレット導入による満足度の変化—アンケートより— プラクティス 2010 : 27(1) : 104-106
2. 越山裕行 モサプリドの投与後、血糖コントロールが改善した 2 例 Pharma Medica 2010 : 28(3) : 94-95

3. 越山裕行 J-CLEAR 通信 JUPITER 試験をめぐる論争：反乱とゼウスの怒り 日本医事新報 2010 ; 4510 : 36-39
4. Koshiyama H, Ogawa Y, Tanaka K, Tanaka I. Integrated Network Systems and Evolutionary Developmental Endocrinology. Medical Hypotheses 2010 ; 74(1) : 132-8.
5. Nomura K, Hamamoto Y, Takahara S, Kikuchi O, Honjo S, Ikeda H, Wada Y, Nabe K, Okumura R, Koshiyama H. Relationship between Carotid Intima-media thickness and Silent Cerebral Infarction in Japanese Subjects with Type 2 diabetes. Diabetes Care 2010 ; 33(1) : 168-170.
6. Iwasaki Y, Hamamoto Y, Ikeda H, Honjo S, Wada Y, Koshiyama H. Japanese cases of acute onest diabetic ketosis without glutamic acid decarboxylase autoantibody. Endocrine 2010 ; 37(2) : 286-288.
7. Kojima Y, Ishida T, Sun L, Yasuda T, Toh R, Rikitake Y, Fukuda A, Kume N, Koshiyama H, Taniguchi A, Hirata KI. Pitavastatin decreases expression of endothelial lipase both in vitro and in vivo. Cardiovasc Res. 2010 ; 15;87(2) ; 385-93
8. Koshiyama H. Editorial: Low-grade inflammation as trade-off causing chronic complex diseases. Japanese Clinical Medicine 2010 ; 1 : 3-4
9. Kawasaki Y, Hamamoto Y, Koshiyama H. Minireview: Species-specific Actions of Incretin: from the Evolutionary Perspective. Japanese Clinical Medicine 2010 ; 1 : 5-11.
10. Nishi H, Nishi Y, Yagita M, Tamaru Y, Matsumoto S, Koshiyama H. A case of transient ACTH deficiency associated with polymyalgia rheumatic. Japanese Clinical Medicine 2010 ; 1 : 25-27.
11. Fujioka Y, Fukuda A, Ishida T, Kagimoto S, Nakamura Y, Iwakura A, Hara K, Yamamoto T, Kuroe A, Ohya M, Fujimoto S, Hamamoto Y, Honjo S, Ikeda H, Nabe K, Tsuda K, Taniguchi A, Tanaka K, Koshiyama Hiroyuki H, Kum N, Hirata K-i. Pitavastatin reduces elevated IL-18 levels in Japanese subjects with hypercholesterolemia: Sub-analysis of Kansai Investigation of statin for hyperlipidemic Intervention in Metabolism and Endocrinology (KISHIMEN) Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 2011 ; 18(5) : 8-15.

## 出版

1. 本庶祥子、越山裕行 インスリン分泌促進薬、インスリン抵抗性改善薬 いきなり名医！高齢者への上手は薬の使い方-高齢者に対する薬の安全処方の方：多疾患時代のクスのリスク 桑島巖 編日本医事新報 jmed mook6 p.109-115 日本医事新報社 2010年発行
2. 越山裕行 糖尿病療養指導に必要な知識 3 血圧管理 糖尿病の療養指導 2010-療養指導士を育てるために 日本糖尿病学会編 診断と治療社 p.87-90. 2010年発行
3. (財)田附興風会医学研究所 北野病院糖尿病内分泌センター編 (協力：岸本浩之、南川順) 糖尿病における病診連携：なぜ今「2人主治医制」なのか-北野病院の取り組みを通して考える サノフィアベンティス社 2010年発行
4. 河崎祐貴子、越山裕行 甲状腺機能亢進症 骨代謝マーカー改訂版 -これだけは知っておきたい骨代謝マーカーの基礎と適正使用- 医薬ジャーナル社 p.170-176. 2010年発行
5. 越山裕行 インスリンノーマ、消化管ホルモン産生腫瘍 今日の治療指針 2011年版-私はこう治療している 医学書院 p.690, 2011年発行
6. 浜本芳之 インスリン分泌促進作用を越えたインクレチン治療への期待 -インクレチンの膵β細胞増殖作用、膵外作用- 糖尿病プラクティス 2010 ; 27(2) : 171-182 医歯薬出版

7. 浜本芳之、越山裕行 【リスク層別化を考慮した脂質異常症の管理：スタチン薬の開始と目標値】 多リスク時代の新しいストラテジー トータル血管マネージメント Mebio 2010 ; 27(10) : 86-95 メジカルビュー社